

今も

秋元公が愛される5つの理由



関ヶ原の戦いでの功績	ながとも 初代長朝	会津の上杉景勝を説得し、その出陣を押さえることにより、無益な戦を止めさせました。
天狗岩用水の造営	ながとも 初代長朝	領民に対し3年間の年貢を免除し、水利の乏しかった総社領内に他領から用水を引き、領民の暮らしを豊かにしました。
越訴に対する尽力	たかとも 4代喬知	秋元氏の後、総社領を治めた安藤出雲守の暴政に対する総社領民の越訴(直訴)に対して、その訴えを認める裁定を引き出しました。
遠方からの義援米	つねとも 8代永朝	1783年(天明3年)、浅間山の天明の大噴火により甚大な被害を受けた総社領民に対し、遠く山形から義援米を贈りました。
造営奉行		2代泰朝は日光東照宮の造営奉行に、4代喬知は江戸城三の丸造営総奉行、元禄大地震復興総奉行にそれぞれ任命されています。

このように初代秋元長朝公だけでなく、秋元氏は代々総社領民のことを気にかけておりました。

また当時の農民も「一握りの米」を出し合って、天狗岩用水開削・完成から172年後の1776年、秋元氏の菩提寺・光巖寺に「力田遺愛碑(田に力めて愛を遺せし碑)」を建てました。

封建時代、領民が領主の業績をたたえて建てた碑はめずらしいものです。碑文の最後には「安永五年丙申十一月百姓等建」とはっきりと刻まれており、その言葉には、年代を超えた領主と領民の温かい人間関係も見てとることができます。